

平成26年度第2回山形県図書館協議会議事概要

1 日時 平成27年3月18日(水) 13:30~14:50

2 場所 遊学館 第2研修室

3 議事(委員の発言等の概要)

○「県立図書館の将来のあり方について」

[新藤委員]

- ・大変素晴らしい案。全般に問題点を抽出し、その解決の道筋を説明できていると思う。
- ・大活字本については「楽らく文庫」と名付け明示しているが、他の図書館でPRしているところは少ない。点字図書館との連携もあまり聞かない。将来的に連携を視野に入れてはどうか。
- ・P14, 3-2、新聞雑誌コーナーに限定して飲料持込みを解禁したのはいいが、既存の喫茶コーナーと連携すればより良くなるのではないかと。カフェのことも視野に入れてもいい。
- ・にぎわい創出について、大変素晴らしいこと。図書館はかつては静寂な環境が求められていたが、最近では用がなくても立ち寄れるイベントを行うところが多くなっており、積極的にイベントなどを行うのは良い。
- ・館内レイアウトについては、NDC(日本十進分類表)に拘り過ぎずに、例えば、暮らし、趣味、文学歴史というように配置してみたり、色で分けてみたり、マスコットを置いたりしてはどうか。日比谷図書館は、面白いレイアウトをしている例。
- ・ボランティアを使って色々やっている図書館が増えている。カウンター業務のうち単純な業務は自動貸出機に任せて、お話し会や朗読など単純作業だけでなく色々してもらえればよいのではないかと。カウンター職員の対応は全くのゼロではなくある程度必要。
- ・最近の図書館には、個人用の研究室を有料で貸し出すところがあり、また、中学生スペース、高校生スペース、一般スペースなどに分けているところもある。無料は中学生までに特化とか。Wi-Fiの設置もある。需要があれば一部有料制のものを作るのも良い。

[鈴木委員]

- ・利便性の向上について、色々考えられている。手荷物持込みの解禁等の、これからやることのタイムスケジュールはどうか。
- ・飲料の持込みについて、もう少し奥のエリアまで出来ないか。貸出すれば飲み物と一緒にになるので同じでは。
- ・県営駐車場について、東側にも直通で出入口をつけるなど、アプローチを短くすることは出来ないか。

(事務局)

- ・手荷物持込みの解禁については、来年度予算で、図書にICタグをつけることとしているので、来年度末までには解禁したい。また、ICタグの導入により特別整理期間の短縮が可能となるので、開館日の増加につながると考えている。
- ・図書館の中には、郷土資料などで副本がないような貴重な資料もあり、まずは新聞雑誌コーナーから始めたということである。

- ・県営駐車場については話を聞いてみたい。

[沼野委員]

- ・比較的温厚な内容。出来れば数値目標を掲げて決意を示せばよかったと思う。議論した内容がもれなく盛り込まれていると思う。
- ・司書資格のある職員の確保については、もっと踏み込んでもよかったのではないか。NPOやボランティア団体には有資格者でありながら家庭にいる方がかなり多くいるので、将来的に女性の活躍の場となりうるのではないか。有資格者の登録制度も将来的には必要。
- ・13ページはさらに踏み込んで。子どもたちがスマホからおすすめの図書の検索を気軽にできるようにすれば、紙と電子媒体と両方で。若い人の利用が増えると思う。以前実施していた「手づくり絵本コンクール」のような子ども向けのイベントなどで読書に親しむ種まきとして、すそ野を広げていくことが大切だ。

[佐多委員長]

- ・職員の司書資格者が他県に比べ非常に少ない。秋田県は司書が外に出て行ってイベントで活躍している。もう少し将来の展望で明らかにしてほしいという意見。
- ・開館日の増加、高齢者や乳幼児への配慮などあるべき図書館像は出せたと思う。

[大宮委員](当日欠席のため、書面による意見)

① 図書館用品・家具・写真の展示

神奈川県立図書館は閲覧室用に設計された「図書館の椅子」を(株)天童木工から借り、開館60周年特別記念で展示。この椅子は座り心地の良さが評判を呼び、天童木工から一般向けのダイニングチェアとして販売され、その後何度も改良が加えられながら現在まで販売が続いている。展示したのは最初のデザインに近いモデルの物。また、現在の市販モデルの椅子も借りて、来場者に座り心地を体験してもらい、布張りとう木製の座面の違いを楽しんでもらったそうだ。このような地元業者との提携による企画があるとよい。

② 日常的、継続的な「おはなし会」の実施

幼児～小学生に対して色々な絵本を読み聞かせしてくれる「おはなし会」は、本に対する興味を育て、本を好きな子どもにするための大切な役割をもっている。お話の世界を一緒に楽しんで、コミュニケーション力を高めるという役割もある。図書館員やボランティアの方たちによって、週に1～2回、1回30分程度の時間で約3～4冊の本を読んでもらいたい。また、想像しながらお話だけ聞いたり、歌や手遊びなどを織り交ぜたりするなど、ストーリーテリングを開催できるとよい。

③ 館内で視聴できるビデオ・DVD・LDの所蔵

音楽CD・レコードなどもあり、クラシックが楽しめる優雅。ブース内で兄弟や友だち・親子でヘッドフォンをつけて一緒に視聴できる配慮もあると嬉しい。

[佐多委員長]

もう少し強く、将来へ向けて打ち出してもよいのでは。励ましの意。文言の調整は事務局と私で相談させていただきまとめたいが、一任させてもらえるか。

(委員異議なし)

[佐多委員長から巻頭言について]

最後に巻頭言を読み上げ、意見とさせていただく（3行目より読み上げ）。

平成25年度の協議会以前にも貸出冊数や利用者数を分析したが、指摘しただけで大きな見直しはされてこなかった印象。データで比較しにくい部分もあるが、劣っている部分を明らかにすることを思い切ってやった、前向きな姿勢として評価できる。前の協議会に関わった身として大きく前進したと感じる。毎回、出ていた要求の手荷物の件や飲料の解禁など、一步踏み出した。そういうことをやると弾みがつく。

開館日数、時間増を加えたことは良い。高齢者、乳幼児、特別な支援が必要な方を支援していくことが体系図に表れている。

もっと踏み込んで、という意見があった、予算との関係もあるだろうが目指す図書館像を実現する第一歩として期待している。

○ その他

[佐多委員長] 来年度の予算の説明を教育庁生涯学習振興室から。

[生涯学習振興室長]

ICタグの導入、来年は開架に入れて利便性が向上する。その後、閉架について進めていく。郷土資料の整備は、デジタル化に向けて大きな柱としてやっていかなければならないとして予算化されている。

ICタグ導入による可能性として、開架の本を増やし、利用者が自由お茶を飲みながら本を読むことも可能になる。図書館を中心に違った角度から賑わい創出を考える検討委員会を設置し、協議会の内容を踏まえさらなる活性化を考える。

[新藤委員]

郷土資料の整理について。書庫に未整備の和綴本があると聞いているが、それを整理するのか。

[生涯学習振興室長]

まずは閉架に眠っているものの整備から手掛ける。必要に応じて専門家に判断を仰ぐことも予算化し進めていく。